

2010年(平成22年)10月14日(木)

# 慢性的な疾患、顕著に

7月末から洪水被害が続き、約2000万人が被災したパキスタンで、緊急支援に取り組んだ国際医療救援団体「AMDA」(本部・北区)は13日、記者会見を開いた。現地での診療した菅波茂代表は「現地のNPOと連携したのが良かった。洪水で慢性的な疾患、貧困の影響が顕在化している」と報告した。【石戸諭】

AMDAは先月2日 シュ、インドネシア各から支援を開始。同国 支部の医師、看護師ら南東部シンド州タッタ 計20人が巡回診療にあり県などの避難キャンプ たった。マラリアよりで、本部、アフガニス も、胃炎や呼吸器感染タン、バングラディッ 症などが目立った。

## パキスタン洪水被害

# 現地での診療 AMDA報告



タッタ県で被災者を治療する日本人看護師(左)

AMDA提供

AMDAによると、と話す。

現地の学校などでは洪水の跡が残り、道路の冠水がまだに残る地域もあった。全身のけん怠感、痛みを訴える患者も多かった。菅波代表は「現地NPOが、水の浄化剤を配布しており、下痢の被害を抑えることができた。患者は貧しく、日常的な医療ケアが課題だ。洪水は被害が広範囲、長期間にわたる。継続した支援を考えたい」と話している。

調整員として現地入りした土佐光章さん(40)は「パキスタンといえばテロと見られることがある。しかし、大事なのはそこで暮らす人たちの生活だ。当たり前の生活ができるように復興支援が必要だ」と話した。

AMDAは、避難キャンプで小学校仮設校舎建設、女性の生活支援プログラムなどを検討している。

「長期間の支援考えたい」